

学校経営

○ 学校経営の理念

学校の主人公は生徒である。その学校が担う役割は、生徒の『学力保障』と『社会性の醸成』と考える。それにより、学校の諸活動は、常にその達成を目指し、生徒の人格形成に資するものでなければならない。従って、学校生活において生徒へ、自己肯定感をもたせ、社会の中で自己実現できるよう指導・支援する。そのために、学習環境を整え、生徒一人ひとりが目標を持ち、心豊かで、心身ともに健康な生徒の育成に向けた学校づくりを目指す。

1 教育目標

教育目標

- 目標を持ち自ら学ぶ生徒 【知育】
- 心豊かで思いやりのある生徒 【徳育】
- 心身ともに健康で忍耐力のある生徒 【体育】

重点事項

- 黄金の教育「未来の『幸せ』へつながる教育」
～ 愛情と信頼に支えられた学校・学年・学級 ～

子ども一人ひとりに自己肯定感をもたせる

めざす学校像(信頼される学校)

- 居心地がよく充実感や自己の存在感が実感できる学校
- 一人ひとりの個性や能力が発揮できる学校
- 保護者や地域から信頼される開かれた学校



めざす生徒像(エージェンシー*のある生徒)

- 自ら課題を見つけ、主体的に判断し、粘り強く問題解決する生徒(自己決定できる生徒)
- 目的意識を持って、仲間や様々な人と協働できる生徒
- 心身の健康を自覚し、健康安全な生活を送ることができる生徒

めざす教師像(アップデートできる教師)

- 教育愛に燃え、生徒を支え、生徒の信頼に応えられる教師
- 生徒の良さをみつけ、温かさを持って生徒を育てる教師
- 教育公務員としての自覚を持ち、社会人としても品位と人間味あふれた教師

※OECDが重視する Agency。文部科学省は「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」と訳。

目標具現化の指標

自ら課題を見つけ、主体的に判断し、粘り強く問題解決する生徒

- 自ら課題を見つけ、自ら進んで学習することができる。
- ものごとを主体的に判断し、自己決定を繰り返すことができる。
- ものごとを筋道を立てて考え、粘り強く解決することができる。

目的意識を持って、仲間や様々な人と協働できる生徒

- まわりの意見を尊重し、認め合うことができる。
- 他人を思いやり、自分も大切にすることができる。
- まわりへの感謝の気持ちを表すことができる。

心身の健康を自覚し、健康安全な生活を送ることができる生徒

- 継続的に体力づくりに励み、健康安全に努めることができる。
- 進んで働き、最後までていねいにやりぬくことができる。
- 仲間と助け合いながら活動することができる。

2 学校経営方針

- (1) 生徒の未来の「幸せ」につながる、愛情と信頼に支えられた柔軟性のある教育活動に努める。
- (2) 居心地が良く、自己存在感が実感できる学校・学年・学級づくりに努める。
- (3) 生徒一人ひとりの個性や能力が発揮できる教育活動に努める。
- (4) 保護者、地域、家庭との連携を図り、信頼される開かれた学校づくりの推進に努める。
- (5) 生徒の「学力保障」に向け、調和のとれた教育課程を編成し、個別最適な学びの実現に努める。
- (6) 生徒の「社会性の醸成」に向け、じりつ(自立・自律)し自己決定できる生徒の育成に努める。
- (7) 教師は、社会の情勢を的確に捉えた学習観や指導観を身につけ、常にアップデートに努める。
- (8) 教師は、自己研鑽に励み、生徒の信頼に応えられる教育活動の実践に努める。
- (9) 教育公務員としての自覚をもち、社会人としての品位と人間味をもった教育活動に努める。
- (10) 職員の同僚性を高めることや校内美化の推進等を心がけ、働きやすい職場づくりに努める。

○ 学力の保障

○ 社会性の醸成

学習面

- 1 興味を持って学ぶ
- 2 積極的な挑戦
- 3 自分に合う学習習慣
- 4 他人との学習共有
- 5 健康な生活習慣

南風原中学校 master 5 things

生活面

- 1 コミュニケーション能力
- 2 他者への配慮と思いやり
- 3 誠実さと正直さ
- 4 社会規範の理解と遵守
- 5 協力とチームワーク

3 学校経営方針に係る視点

(1) 学習指導の充実(自立した学習者の育成)※RSの視点を取り入れた授業実践

- ① 自己の未来を切り拓くために、「子ども一人ひとりに自己肯定感をもたせる」ことを目的に、個別最適な学びの実現を図る。
- ② 学ぶ側の思考で授業を構想する。**基礎的読解力を高めるとともに**、授業の中で生徒一人ひとりが力を発揮できる場を用意し、生徒同士や生徒と教師が認め合う関係をつくる。
- ③ 対話のある授業を目指し、生徒が発言する場を多くもち生徒の発言に対し「問い返し」を随時行う。また、「問い」と「答え」の間をできるだけ長くとり、生徒が自分で考える時間を多く設定する。
- ④ 生徒が、授業において『分かった』『楽しい』と思える授業実践を行う。また、どの教科の授業も、原則グループやペア活動を取り入れ、話し合う場面を設定する。
- ⑤ 学習評価は、生徒自身が勝ち取るものであり、生徒に与えるものではないという意識を持って学習指導にあたる。

(2) 生徒指導の充実

- ① 生徒指導の実践上の視点である、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を意識した実践に努め、生徒の発達を支える。
- ② 生徒へ「社会性を醸成する」ことを目指し「時を守り、場を清め、礼を正す」を本校の生活目標の軸とし、共通理解と共通実践に努める。
- ③ 自他を敬愛し、他者と協力しながら自己実現を図る自己指導能力の育成に努める。
- ④ 教育的愛情を持ち、生徒と日常的に積極的な関わりをもちながら、個々の生徒の状態に合った柔軟な支援に努める。
- ⑤ 家庭・地域・関係機関との連携に努める。
・相互信頼と連携・協力 ・情報連携から行動連携へ ・ケース会議の開催

(3) 教育相談の充実

- ① カウンセリング・マインドをもって指導に当たり、個人のもつ悩み等の解決を援助するとともに、すべての生徒の豊かな自己実現を図るための効果的な指導・援助を重視する。
- ② 日常の教育相談の充実に努めるとともに、定期教育相談の効果的な活用を図る。
- ③ 教育相談活動の充実及び教育相談担当教諭との連携に努める。
- ④ 養護教諭と日常的に情報交換を行い相互に連携し合う。
- ⑤ 社会や家庭の影響、発達の特性等、様々な事案に対応するために、SCや心の相談員、SSW等の専門スタッフや関係機関との連携を図り、教育相談委員会による組織的対応の構築を図る。

(4) 学年・学級経営の充実

- ① 居心地がよく充実感や自己存在感を生徒が実感できる学年・学級づくりに努める。
- ② 学校教育目標、学年教育目標を具現化するため、「学年経営案」「学級経営案」を作成し、それに基づくきめ細かな支援を計画的、継続的に推進する。
- ③ 常に、明るく和やかな雰囲気を醸し出すような校内環境の整備に努める。

- ④ 係活動や当番活動などの諸活動を通して学年・学級への所属感が得られるように、生徒相互及び教師と生徒の好ましい人間関係づくりに努める。
- ⑤ 学年・学級での生徒の様子や取り組み等を、積極的に保護者へ伝えるように努める。

(5) 道徳教育の充実

- ① 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、全職員による研修やローテーション授業等、計画的・発展的な指導を全校体制で行う。
- ② 学校の教育活動全体を通じて、日常生活における基本的な生活習慣を身に付けさせ、節度と調和のある生活ができるよう指導を徹底する。
- ③ 公共心、公德心を高め、公共物を愛護し、自他の物を区別して責任ある行動がとれるような指導の徹底を図る。

(6) 特別活動の充実

- ① 生徒の主体的な学級活動や学校行事等を推進・支援し、自己肯定感や達成感、所属感を高め充実した学校生活に繋げる。
- ② 学級活動及び生徒会活動の活性化を図り、集団の一員としてより良い生活を築こうとする主体的・自主的な態度を育てる。
- ③ 集団活動の意義を理解し、多様な他者と協働する活動を通して自己の生き方についての考えを深め、Time(時間)、Place(場所)、Occasion(場面)に合った行動を身に付けさせる。

(7) キャリア教育・進路指導の充実

- ① 自らの将来に向けた目標をもたせ、その達成のために個に応じた支援をする。また、生徒自らが進路等を自己決定できるような、教育活動全体を通したキャリア教育や進路指導を行う。
- ② 社会的自己実現のために、教育活動全体において、生徒一人ひとりが自ら考え、選択し決定する体験を多く設定する。
- ③ 生徒が、自己についての理解を深め、自己の可能性を信じ、「なりたい自分」を求めて模索し、将来への夢や希望を抱くことができるよう支援する。また、「キャリア・パスポート」等を計画的に活用し、キャリア教育の継続性を図る。

南風原中学校 学校経営の授業改善構想

目的

未来の『**幸せ**』へつながる教育

理念

学力の保障

+

社会性の醸成

重点目標

一人ひとりに『**自己肯定感**』をもたせる

○ 学力の保障

○ 社会性の醸成

学習面

南風原中学校 master 5 things

生活面

- 1 興味を持って学ぶ
- 2 積極的な挑戦
- 3 自分に合う学習習慣
- 4 他人との学習共有
- 5 健康な生活習慣

- 1 コミュニケーション能力
- 2 他者への配慮と思いやり
- 3 誠実さと正直さ
- 4 社会規範の理解と遵守
- 5 協力とチームワーク

○ 基本的な考え方

- (1) 積極的な生徒指導は、授業の中にあるという授業実践
- (2) 全ての生徒が自ら学びに向かうような授業実践
- (3) 『教師の授業改善の視点』向かう授業実践
- (4) 『分かった』『楽しい』と思えるような経験が多くなる授業実践
- (5) 『自分のことをみてくれる』『授業についていけば大丈夫』と思わせる授業実践

○ めざす授業 : 生徒一人ひとりが学ぶ楽しさを見いだせる授業実践 (キーワード : 対話 協同的な学習 問い返し)

○ 教師の役割 : ファシリテーターとして『傾聴』し『問いかけ』を行い生徒の背中を押す 『学びの伴走者』となるイメージをもつ

○ RSの視点を通じた授業改善: 自立した学習者の育成の手立てとして 「基礎的読解力を高める授業実践」

- ・教科書(テキスト)を理解・評価しながら読む力を高めること
- ・教科書(テキスト)に基づいて自分の考えを書く力を高めること
- ・様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実すること

○ 生徒一人ひとりの実態把握のための手段

- 日々の学習活動(ワークシート等の記述内容 授業中の発言 教師の行動観察 生徒の自己評価・相互評価)
- 課題等の成果物 ○ 論述やレポート ○ グループでの話し合い ○ 作品やパフォーマンス評価 ○ 形成テスト
- 全国学力学習状況調査結果 ○ 県到達度調査結果 ○ RST結果 ○ Q-U結果



南風原中学校

master 5 things

私たち南風原中学校では、生徒それぞれが未来の『幸せ』に向けて、『学力』と『社会性』を身につけていけるように学校生活を送ります。

そのために学習面・生活面では、次の5つのこと(5 things)を身につけていきます。

学習面



- 1 興味を持って学ぶ
自分の目標を意識し学ぶこと

○ 自分の好奇心に耳を傾ける。何に興味があるのか？ なぜ興味を持ったのか？ 学ぶことで何を身につけたいのか？

- 2 積極的な挑戦
未知のことや新しいことに挑戦

○ 新しいスキルや知識を身に付ける・大きな目標達成に向けた小さなステップ・失敗は学びの一部・失敗を活かした成長

- 3 自分に合う学習習慣
持続可能な学び方

○ 自分に合う学習スタイル・少しずつでも学び続ける・集中できる環境づくり・目標設定しモチベーションアップ・柔軟な変化

- 4 他人との学習共有
積極的にコミュニケーション

○ 相手の意見を尊重・共感・他人の話に耳を傾け、意見やアイデアの受け入れ・相手の考えと自分の考えの比較

- 5 健康な生活習慣
学びの成果を最大化

○ 十分な睡眠・バランスの取れた食事・身体や脳の機能向上のための運動・時間の管理や休憩・リラックスとストレス解消

生活面



- 1 コミュニケーション能力
場面にあったコミュニケーション

○ 積極的な関わり・他人に対しての礼儀正しさ・他人の意見に耳を傾けた協力姿勢・相手の立場を尊重した適切な言葉遣い

- 2 他者への配慮と思いやり
よりよい人間関係づくり

○ 相手の立場や感情への共感・日常の小さな親切・不快にさせない言葉遣い・プライバシーの尊重・他者への感謝と謙虚な姿勢

- 3 誠実さと正直さ
周囲との信頼関係づくり

○ 約束や取り決めを守る・誤解や誤った期待を生じさせない・行動が言葉と一致・自分の弱点や課題を認めて克服する努力

- 4 社会規範の理解と遵守
社会での円滑な関係と調和

○ 公共でのマナーや礼儀正しい振る舞い・期待される行動把握・対話を通じた他者への共感・安全で公正な社会の維持

- 5 協力とチームワーク
安心な居場所づくり

○ 学級でのよりよい関係づくり・共通の目標達成・やるべきことを遂行するための役割分担・協力し、助け合いながらの成長



令和 8 年度 南風原中学校 グランドデザイン

令和の日本型学校教育

すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

生徒数 1年生:300名
2年生:282名
3年生:283名
合計 865名
職員数 名 R7 4/1現在

学校教育目標

- 目標を持ち 自ら学ぶ生徒
- 心豊かで 思いやりのある生徒
- 心身ともに健康で 忍耐力のある生徒

学校教育における指導の努力点

- 確かな学力の育成
- 豊かな心の育成
- 健やかな体の育成

南風原町教育基本計画

～未来を切り開く感性と創造性を求めて～

黄金の教育

—未来の『幸せ』へつながる教育—
～居心地の良い学校・学年・学級づくりを通して～

めざす学校像（じりつした活動・実践のできる学校）

- 自己の存在感・有用感を実感し生活できる学校
- 一人ひとりが将来に向けて個性や能力を伸ばせる学校
- 保護者や地域と連携・協働し信頼される学校

今年度の重点取組 子ども一人ひとりに自己肯定感をもたせる

『じりつ』

自らの考え、自らの判断で、
自ら決定し、自ら行動する資質

『じりつ』

自らの課題を、自らの判断で、
自らの責任のもと解決する資質

めざす生徒像（master 5 thingsの習得）

- 自らの課題を見つけ、主体的に正しく判断し、行動を自己決定できる生徒
- 周りの人たちを尊重し、仲間や様々な人と対話や協働ができる生徒
- 心身の健康を自覚し、公衆道徳を身につけ健康安全な生活を送ることができる生徒

めざす教師像（アップデートできる教師）

- 一人ひとりを丁寧に見取り、支えながら生徒の成長に向け取り組む教師
- 目的と手段を的確に判断し、軸となる考えをもち自立した実践のできる教師
- 教育公務員としての自覚を持ち、社会人としての品位と人間味あふれた教師

南風原中学校 master 5 things

○ 学力の保障

- 1 興味を持って学ぶ
- 2 積極的な挑戦
- 3 自分に合う学習習慣
- 4 他人との学習共有
- 5 健康な生活習慣

○ 社会性の醸成

- 1 コミュニケーション能力
- 2 他者への配慮と思いやり
- 3 誠実さと正直さ
- 4 社会規範の理解と遵守
- 5 協力とチームワーク

学校評価

1 必要性・目的（「学校評価のガイドライン」より）

学校の裁量が拡大し、自主性・自律性が高まる上で、その教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことにより、児童生徒がより良い教育活動等を楽しめるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準の向上と保証を図ることが重要である。また、学校運営の質に対する保護者等の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たすとともに、学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進が図られることが期待される。

これらのことから、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び、評価結果等を広く保護者等に公表していくことが求められる。

2 学校評価の方法

- (1)各学校が自ら行う評価及び学校運営の改善【自己評価】
- (2)評価委員会等の外部評価者が行う評価及び学校運営の改善【外部評価】
- (3)評価結果の説明・公表、設置者への提出及び設置者等による支援や条件整備等の改善

3 評価の主体

- (1)各学校の教職員が行う評価【自己評価】
- (2)保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について評価することを基本として行う評価【学校関係者評価】
- (3)学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価【第三者評価】

4 学校評価に関する規定

○学校教育法

第42条 小学校は、文部科学大臣の定めるところにより当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。※幼稚園、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等にもそれぞれ準用。

これにより、各学校は法令上、

- ①教職員による自己評価を行い、その結果を公表すること、
- ②保護者などの学校の関係者による評価（「学校関係者評価」）を行うとともにその結果を公表するよう努めること、
- ③自己評価の結果・学校関係者評価の結果を設置者に報告すること、
が必要となる。

5 本校学校評価の実施の時期

- (1)1学期の終了1ヶ月前（7月）
- (2)2学期の終了1ヶ月前（12月）
- (3)その他、必要な時期に行う。

※ガイドラインでは、「教育活動の区切りとなる適切な時期に行う。」としている。

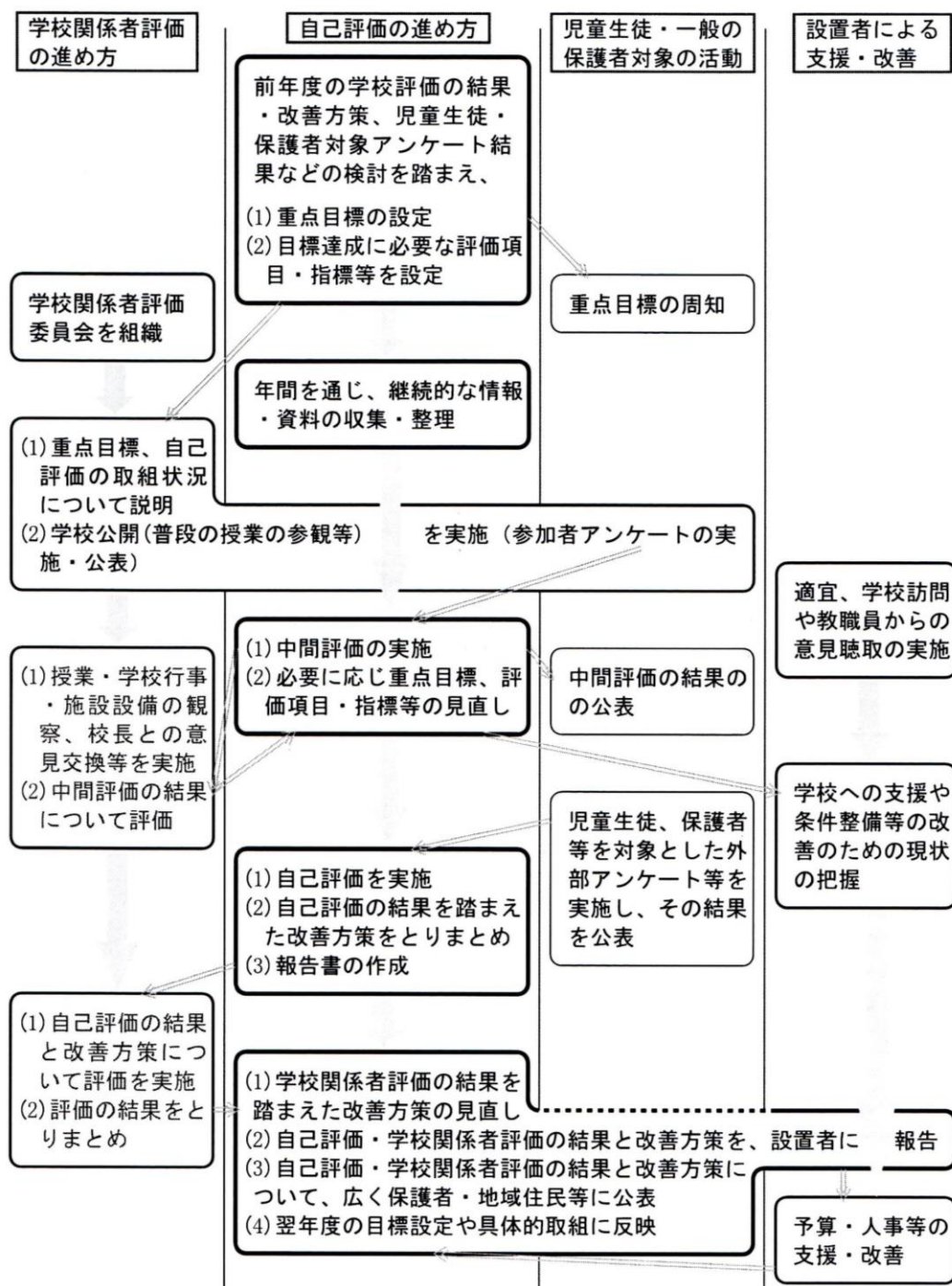
※特に2学期の評価結果は、次年度委員会の議題となるように連動を意識する。

6 実施のイメージ

自己評価・学校関係者評価の進め方のイメージ例

〔注〕「設置者による支援・改善」の欄を除き、特に明示がない場合には、学校がそれぞれの活動の主体になる。

青字で記述した活動は、学校関係者評価委員会が活動の主体になる。



7 学校評価委員会

- (1) 校長、教頭、主幹教諭、教務、生徒指導主任、研究主任、事務主事で原則構成し、必要に応じて現在の企画委員会のメンバーに拡大することがある。
- (2) 学校評価委員会は、学校評価の全般について話し合いを行い、アンケート項目の検討、アンケート実施、集計、まとめ、考察、学校評価書の作成を行う。
- (3) 作業の分担
 教頭・学年主任・学級担任・・・保護者アンケート・生徒アンケート
 教頭・学年主任・学級担任・・・職員アンケート
 教頭・教務・・・自己評価書の作成・学校関係者評価委員会との調整
 教頭・・・自己評価書・学校関係者評価書の設置者への報告
 教頭・教務・・・学校評価結果の公開・公表の作業
- (4) 実施時期

月	事 項	備 考
5 月	職員会議にて、本年度の学校評価の方針を確認 アンケート項目の検討	
6 月	アンケート項目の確認	
7 月	生徒・保護者のよる評価、職員による評価の実施・分析	
8 月	職員会での共通理解 学年会での話し合い・手だての構築 学年・学級目標の反省・分析・2学期からの重点の設定	
9 月	課題の改善につながる教育活動の取組と推進	
12月	次年度準備委員会による話し合いの開始	
1 月	教育計画作成委員会による話し合いの開始	
2 月	各教科年間指導計画の作成、アンケートの分析等を参考に 次年度4月からの教育活動に生かしていく。	
3 月	次年度教育計画の確定・教育計画の確定	

※大切な理念・エッセンスの共通理解

- ①いくら学校評価を適切に行っても、学校自体が変わらなければ意味がない。
- ②学校の教育活動の精選・重点化が必要となる。
- ③アンケートは、相手が答えられることが最低限の条件であり、漠然とした問いやその人が関知していない事項あるいは学校が判断すべき専門的な事項について問うのは避けるべきである。
- ④自己評価、外部評価、設置者等による支援や条件整備は三位一体で行われる。
- ⑤学校の自己評価は、「各学校が自ら行う評価及び学校運営の改善」としている。
- ⑥学校評議員の評価、保護者・生徒の意見は、教員の自己評価を補完するものである。
- ⑦自己評価と外部評価には「ズレ」が生じるため、それが改善のきっかけとなる。
- ⑧評価を数値化することになるが、数値では表せない内容があることを忘れてはならない。
生徒の努力している姿とか、数値が低いけど工夫している項目等、数値には表れないことこそ忘れてはならない。
- ⑨アンケート実施時に、保護者が学校のことが分からず、評価に困るときは、「？」をつけさせる工夫も必要である。そのことは一層の情報提供が必要な事柄である。
- ⑩これまで取り組んできた南風原中の学校評価の中に、ガイドラインに示された内容を適宜取り込み、学校評価の質的な改善を図ればよいのである。

R7. 12月 生徒結果 ※値は、すべて%です。 4 よくあてはまる 3 だいたいあてはまる 2 あまりあてはまらない 1 あてはまらない		1 学校へ行くのが楽しい。	2 授業はわかりやすく楽しく全体的に（1授業の教科だけではなく全体的に）	3 授業に集中して取り組んでいる。	4 先生方は、教え方をいろいろ工夫している。	5 先生方は、進路面について指導してくれる。	6 先生方は、学習や生活面、学校行事などで努力したことを認め、評価してくれる。	7 先生方は、いじめや悩みなど、困っていることについて相談にのってくれる。	8 先生方は、生命の大切さについて指導してくれる。	9 道徳の時間は、自分の心を成長させてくれる。	10 学校は、環境美化や学習環境が整っている。	11 8時5分までの登校を心がけている。	12 自分から進んで気持ちのよいあいさつができる。	13 2分前入室・1分前黙想ができています。	14 人の話を聞くことができる。	15 自分の考えを、進んで発表することができる。	16 正しい姿勢で授業を受けている。	17 ルールやマナーを守って行動できる。	18 いじめをしないように心がけている。	19 自分の健康面や安全面に気をつけて生活している。	20 相手を思いやり、だれとでも仲良くできる。	21 自分の持ち物や、公共物を大切にすることができる。	22 係や当番活動など、役割を最後までやり遂げることができる。	23 自分の目標を持っている。（進路や部活動含む）	24 南風原中の一員として、自信と誇りを持って生活している。	25 未来ノートを活用して、振り返り、計画を立て、見通しを持って行動している。
全体	4&3 (肯定的回答)	87	82	89	95	89	95	92	94	92	90	81	79	94	96	56	83	95	99	95	93	97	97	89	89	64
	2&1 (否定的回答)	13	18	11	5	11	5	8	6	8	10	19	21	6	4	44	17	5	1	5	7	3	3	11	11	36
1年生 (270)	4&3 (肯定的回答)	82	79	87	95	81	94	91	92	91	92	83	78	91	95	55	77	93	97	94	91	97	96	85	87	70
	2&1 (否定的回答)	18	21	13	5	19	6	9	8	9	8	17	22	9	5	45	23	7	3	6	9	3	4	15	13	30
2年生 (239)	4&3 (肯定的回答)	88	80	89	96	90	96	93	94	93	87	80	84	95	97	56	85	96	100	95	90	97	97	87	87	63
	2&1 (否定的回答)	12	20	11	4	10	4	7	6	7	13	20	16	5	3	44	15	4	0	5	10	3	3	13	13	37
3年生 (245)	4&3 (肯定的回答)	91	88	92	95	96	96	93	96	93	91	80	74	97	95	59	87	97	100	95	96	99	98	93	91	58
	2&1 (否定的回答)	9	12	8	5	4	4	7	4	7	9	20	26	3	5	41	13	3	0	5	4	1	2	7	9	42

令和7年度 学校評価アンケート(1学年保護者)

7月結果(回答率46%)

12月結果(回答率50%)

No	質 問 項 目	肯定的	否定的	判断 できない	肯定的	否定的	判断 できない
1	子どもは、学校へ行くのが楽しいと感じている。	79%	20%	1%	81%	18%	1%
2	子どもは、授業はわかりやすいと感じている。	---	---	---	58%	37%	5%
3	子どもは、学習の習慣が身についている。	50%	49%	1%	36%	64%	0%
4	子どもは、あいさつ、返事が身についている。	84%	15%	1%	79%	21%	0%
5	子どもは、時間を意識した行動が身についている。	65%	35%	0%	63%	36%	1%
6	学校は、進路面について指導している。	71%	13%	16%	66%	22%	12%
7	学校は、生命の大切さについて指導している。	74%	7%	19%	63%	14%	23%
8	学校は、学習で努力したことを認め、評価してくれる。	77%	5%	18%	83%	10%	7%
9	学校に、子どもの学習や健康について、気軽に相談できる。	67%	21%	12%	70%	25%	5%
10	学校の施設、設備は整っている。	82%	12%	6%	83%	10%	7%
11	学校の環境美化や学習環境は整っている。	88%	7%	5%	86%	11%	3%
12	学校は、ホームページや通信などを通して学校の様子を伝えている。	90%	10%	0%	93%	6%	1%
13	学校は、保護者や地域と積極的に連携をとっている。	76%	11%	13%	73%	16%	11%
14	子どもに、スマホやSNSが利用できる端末を持たせている。	93% (持たせてい	7% (持たせていな	0%	84% (持たせている)	11% (持たせていない)	5% (保護者端末)
15	子どもと、スマホやSNSの利用についてルールを決めている。	100% (決めている)	0% (決めていない)		82% (決めている)	14% (決めていない)	4% (該当しない)
16	子どもは、ルールやマナーを守ってスマホやSNSを利用している。	71%	25%	4%	76%	19%	5%
17	家庭では、子どもと学校であったことについて、話し合っている。	90%	10%	0%	89%	11%	0%
18	家庭では、子どもの学習状況を把握している。	73%	27%	0%	78%	22%	0%
19	家庭では、子どもの将来の夢や希望について、話し合っている。	88%	12%	0%	88%	12%	0%

※7月アンケート No2質問項目に不備がありました。申し訳ございませんでした。

令和7年度 学校評価アンケート(2学年保護者)

7月結果(回答率42%)

12月結果(回答率54%)

No	質 問 項 目	肯定的	否定的	判断 できない	肯定的	否定的	判断 できない
1	子どもは、学校へ行くのが楽しいと感じている。	83%	17%	0%	84%	16%	0%
2	子どもは、授業はわかりやすいと感じている。	---	---	---	66%	28%	6%
3	子どもは、学習の習慣が身についている。	55%	44%	1%	52%	47%	1%
4	子どもは、あいさつ、返事が身についている。	88%	12%	0%	91%	9%	0%
5	子どもは、時間を意識した行動が身についている。	74%	26%	0%	68%	32%	0%
6	学校は、進路面について指導している。	66%	22%	12%	64%	25%	11%
7	学校は、生命の大切さについて指導している。	74%	10%	16%	72%	12%	16%
8	学校は、学習で努力したことを認め、評価してくれる。	80%	12%	8%	77%	13%	10%
9	学校に、子どもの学習や健康について、気軽に相談できる。	71%	25%	4%	75%	22%	3%
10	学校の施設、設備は整っている。	69%	21%	10%	76%	16%	8%
11	学校の環境美化や学習環境は整っている。	77%	14%	9%	84%	10%	6%
12	学校は、ホームページや通信などを通して学校の様子を伝えている。	89%	9%	2%	96%	3%	1%
13	学校は、保護者や地域と積極的に連携をとっている。	76%	14%	10%	80%	11%	9%
14	子どもに、スマホやSNSが利用できる端末を持たせている。	89% (持たせてい	11% (持たせていない)	0% (保護者端末)	79% (持たせている)	13% (持たせていない)	8% (保護者端末)
15	子どもと、スマホやSNSの利用についてルールを決めている。	100% (決めている)	0% (決めていない)		76% (決めている)	13% (決めていない)	11% 該当しない
16	子どもは、ルールやマナーを守ってスマホやSNSを利用している。	81%	16%	3%	73%	19%	8%
17	家庭では、子どもと学校であったことについて、話し合っている。	92%	8%	0%	90%	10%	0%
18	家庭では、子どもの学習状況を把握している。	76%	24%	0%	81%	19%	0%
19	家庭では、子どもの将来の夢や希望について、話し合っている。	88%	12%	0%	85%	15%	0%

※7月アンケート No2質問項目に不備がありました。申し訳ございませんでした。

令和7年度 学校評価アンケート(3学年保護者)

7月結果(回答率24%)

12月結果(回答率47%)

No	質 問 項 目	肯定的	否定的	判断 できない	肯定的	否定的	判断 できない
1	子どもは、学校へ行くのが楽しいと感じている。	90%	10%	0%	89%	10%	1%
2	子どもは、授業はわかりやすいと感じている。	---	---	---	83%	14%	3%
3	子どもは、学習の習慣が身についている。	62%	38%	0%	65%	35%	0%
4	子どもは、あいさつ、返事が身についている。	81%	17%	2%	81%	18%	1%
5	子どもは、時間を意識した行動が身についている。	75%	25%	0%	68%	32%	0%
6	学校は、進路面について指導している。	77%	12%	11%	91%	8%	1%
7	学校は、生命の大切さについて指導している。	75%	25%	0%	81%	10%	9%
8	学校は、学習で努力したことを認め、評価してくれる。	93%	3%	4%	88%	8%	4%
9	学校に、子どもの学習や健康について、気軽に相談できる。	75%	17%	8%	83%	16%	1%
10	学校の施設、設備は整っている。	84%	9%	7%	75%	19%	6%
11	学校の環境美化や学習環境は整っている。	90%	10%	0%	82%	14%	4%
12	学校は、ホームページや通信などを通して学校の様子を伝えている。	96%	4%	0%	96%	4%	0%
13	学校は、保護者や地域と積極的に連携をとっている。	87%	13%	0%	82%	14%	4%
14	子どもに、スマホやSNSが利用できる端末を持たせている。	91% (持たせている)	9% (持たせていない)	0% (保護者端末)	88% (持たせている)	8% (持たせていない)	4% (保護者端末)
15	子どもと、スマホやSNSの利用についてルールを決めている。	100% (決めている)	0% (決めていない)		75% (決めている)	25% (決めていない)	5% (該当しない)
16	子どもは、ルールやマナーを守ってスマホやSNSを利用している。	75%	20%	5%	83%	14%	3%
17	家庭では、子どもと学校であったことについて、話し合っている。	90%	10%	0%	89%	11%	0%
18	家庭では、子どもの学習状況を把握している。	87%	13%	0%	82%	18%	0%
19	家庭では、子どもの将来の夢や希望について、話し合っている。	88%	12%	0%	89%	11%	0%

※7月アンケート No2質問項目に不備がありました。申し訳ございませんでした。

令和7年度 学校評価アンケート(教師)

7月

12月

No	質 問 項 目	肯定的	否定的	肯定的	否定的
1	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っている。	100%	0%	100%	0%
2	生徒が自己の学びを振り返り、自らの変容を実感する工夫を行っている。(振り返りシート等)	100%	0%	92%	8%
3	授業でコンピュータや電子黒板等の機器を活用している。	87%	13%	97%	3%
4	学習に関して、生徒の能力や努力(学びに向かう力等)を適切に評価している。	100%	0%	97%	3%
5	落ち着いた雰囲気での授業が始められるよう2分前着席、黙想は徹底して指導している。	93%	7%	97%	3%
6	指導と評価を一体化する授業改善に向け、教材研究等、自己研鑽に努めている。	100%	0%	100%	0%
7	道徳の授業では、豊かな心を育てる教育を行っている。	90%	10%	100%	0%
8	生命の大切さについて、生徒にきちんと指導している。	100%	0%	97%	3%
9	人権を尊重し、思いやりの心を育て、いじめをなくす指導をしている。	100%	0%	97%	3%
10	生徒理解に努め、生徒の悩みや相談にのっている。	100%	0%	97%	3%
11	特別に支援の必要な生徒を把握し、個に応じた適切な指導を行っている。	97%	3%	100%	0%
12	学校の環境美化に努め、掲示物を工夫し、学習環境を整えている。	94%	6%	94%	6%
13	生徒の健康・安全面について気を配り、指導している。	100%	0%	100%	0%
14	日々、施設設備等の安全や修繕箇所等の確認を行い、安全・安心の確保や教育環境の改善に協力している。	93%	7%	100%	0%
15	生徒は生徒会活動(執行部、各種委員会)に主体的に参加している。	84%	16%	86%	14%
16	生徒は、自分の考えなどを進んで発表している。	97%	3%	80%	20%
17	生徒は、学習の習慣が身についている。	46%	54%	53%	47%
18	生徒は、基本的生活習慣が身についている。	36%	64%	83%	17%
19	生徒は、清掃や当番活動などをきちんとやり通すことができる。	90%	10%	86%	14%
20	生徒は、生徒会活動や学級活動に積極的に参加している。	86%	14%	91%	9%
21	生徒は、ルールやマナーを守って行動することができる。	77%	27%	89%	11%

22	生徒は、他人を思いやる行動ができる。	100%	0%	89%	11%
23	生徒は、持ち物や公共物などを大切にすることができる。	80%	20%	78%	22%
24	教職員は保護者や地域へ、学校や生徒の状況を積極的に発信している。	97%	3%	94%	6%
25	教職員はPTA活動の意義を理解し、保護者と連携して活動している。	87%	13%	89%	11%
26	家庭では、基本的生活習慣が身につくような指導がなされている。	77%	23%	83%	17%
27	保護者や地域は、学校へ協力的である。	87%	13%	97%	3%
28	教育目標は、学校・学年・教科経営へと目標の系列化・整合性がとれている。	100%	0%	100%	0%
29	自校の課題を明確にし、学校改善を図るような取組がなされている。	97%	3%	100%	0%
30	学校全体として生徒指導体制や情報の共有化・適切な指導が行われている。	93%	7%	92%	8%
31	校務の推進にあたっては、各主任等を中心に組織の機能を発揮し、円滑な体制の下で進めている。	100%	0%	100%	0%
32	校務を適切に処理するため、積極的に他の職員と連携をとっている。	100%	0%	100%	0%